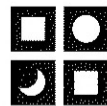


京都府立大学文学部歴史学科  
フィールド調査集報



第2号

2016年3月

## 刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、平成27年度も、京丹後市、舞鶴市、宮津市、京田辺市などの地域で、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなっている。その成果の一部は、京都府立大学文化遺産叢書シリーズとして公刊しているが、それ以外の調査成果など、叢書に掲載されない成果も多くあるため、フィールド調査集報として、まとめて公刊することとした。本書は、その第2号にあたる。

本年度は、『日本のふるさと大丹後展』の共催団体に京都府立大学が加わったこともあり、丹後地域の歴史と文化遺産について、さまざまなアプローチをおこなっている。学生たちの活動も含め、フィールドにおける調査のみならず、大学院生による展示解説の報告など、調査成果の活用面も記録し、文化遺産の調査から活用に至るプロセスが理解できるように配慮したつもりである。今後も、調査研究成果を社会に還元することが強く求められていくことになると思うが、その取り組みの一つとして、活用事例の提示が重要な意義をもつと考えている。

本書は4部から構成されている。第Ⅰ部と第Ⅱ部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告集で、第Ⅰ部は京都府域、第Ⅱ部は京都府外の諸地域を対象としている。第Ⅱ部と第Ⅲ部は歴史学科の学部生と大学院生を主な対象として実施している課外の研修プログラムの報告集で、第Ⅲ部は文化遺産デザイン研修、第Ⅳ部は文化遺産フィールド研修の報告を収録している。そのなかには、第Ⅲ部の文化遺産デザイン研修のように、これまでまとめたかたちで報告を作成してこなかった活動も含んでいる。本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。

## 例 言

1. 本書は、平成 27 年度に京都府立大学文学部歴史学科の教員と学生がおこなったフィールド調査、およびそれに関連する研究、調査研究成果の活用についての概要報告集である。
2. 第Ⅰ部には、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）をはじめ、京都府下において歴史学科教員が中心となって実施したフィールド調査の概要を報告する。なお、複数年度にまたがる研究課題については、平成 26 年度以前の調査成果とあわせて収録している。
3. 第Ⅱ部は、京都府外の地域を対象に、科学研究費補助金の研究課題や受託研究、実習授業などの一環として、歴史学科の教員と学生が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
4. 第Ⅲ部には、平成 26 年度から平成 27 年度に実施した文化遺産デザイン研修の成果を収録した。文化遺産デザイン研修は、歴史や文化遺産に対する知識を活用し、社会に還元するための実践的な方法を学ぶ課外プログラムで、おもに歴史学科の学部 2～4 回生を対象としている。
5. 第Ⅳ部には、静岡県袋井市・藤枝市において実施した、第 7 回文化遺産フィールド研修（平成 27 年 9 月）の成果を収録した。文化遺産フィールド研修は、文化遺産の調査、保全、活用などについて、実際に現地を訪れて学習するための課外プログラムで、おもに学部 2 回生を対象としている。
6. 本号の編集は、菱田哲郎が担当した。第Ⅳ部の編集にあたっては、井上真美（大学院博士前期課程）の協力を得た。なお、表紙のデザインは向井佑介による。